

平和の思いをつづる

「レクイエム・プロジェクト」

国内の被災地や戦災地で、合唱によるコンサートを開いてきた「レクイエム・プロジェクト」が平和の思いをつづった合唱組曲「生きとし、生けるものへ」を完成させ、6日に長崎で初めて全編を披露する。長崎の被爆者のアイデアを基に、広島市の被爆者で詩人の上田由美子さん(79)が歌詞を書いた。思いを届けようと、参加者らは本番に向け練習を重ねている。

【浅野翔太郎】

同プロジェクトは東京の作曲家、上田益さんが主宰。2008年に阪神淡路大震災の被災地・神戸で始まった。合唱を通じて人や地域をつなげようと、東日本大震災の被災地や広島、沖縄など戦争で大きな被害を受けた



合唱組曲「生きとし、生けるものへ」について話す作曲家の上田益さん(左)と合唱メンバーで被爆者の小森さん

長崎で6日 合唱コンサート

地域でコンサートを開いてきた。長崎でも13年から毎年、開かれている。

「生きとし、生けるものへ」は、合唱メンバーで、生後1カ月半の時に被爆した長崎市の小森厚子さん(72)が

**原爆の悲惨さ
歌で冥福祈る**

2年前、「『二度と戦争は嫌だ』という思いを広島、長崎から皆で歌えないか」と提案したのがきっかけで生まれた。「野辺」「コスモスと少年」「海神に守られて」「天と地と海と」の4曲による組曲で、

7歳の時に広島で入市被爆した上田由美子さんが詞を書き、上田益さんが曲をつけた。

小森さんには被爆当時の記憶はないが、母らから原爆の悲惨さを聞いてきた。「歌うことで冥福を祈ったり平和を求めたりすることができると思う。この合唱曲が広まってほしい。特に若い学生に歌ってほしい」と話す。

コンサートは6日午後2時、長崎市魚の町の市民会館で。長崎の約80人に加え、全国からプロジェクトの合唱

メンバーが駆けつけ、総勢130人で歌う。

被災地で歌い続けてきた合唱曲も披露。上田由美子さんによる詩の朗読もある。問い合わせは上田益さん080

・5181・6692。